

## I 学校の概要

### 学力向上モデル校事業 坂出市立松山小学校

#### ◆児童数及び教員数

○児童数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全校
1学級 13名	1学級 31名	1学級 20名	1学級 22名	1学級 20名	1学級 20名	2学級 8名	8学級 134名

○教員数 13名

#### ◆学校の特色

本校は、坂出市の北東部に位置し、白峯寺や青海神社、国宝指定の神谷神社など、歴史ある神社仏閣が多い地域である。令和4年度には地域の特色を生かしたふるさと教育を取り入れた道徳教育の推進校として、地域のよさやその特徴を学び、ふるさとを今後も大切に守りたいという強い思いをもつことができた。

本校の教育目標は「かしこく やさしく たくましく」であり、昨年度から「人を大切にする学校」を合言葉に、児童が主体的に活動し、友だちのために役立っているという実感をもつことができる取組を行っている。本年度は、さらに単学級の特徴を生かし、委員会活動や縦割り活動などを通して全校児童一人一人の内面に目を向けた支援を考え、すべての児童が安心して過ごせる学校づくりを目指している。

## II 研究主題等

研究主題

**自他を認め、多様な他者と共に高め合う児童の育成**  
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して～

#### ◆研究主題設定の理由

急激に変化し予測困難な現代において、児童には、自己のよさや可能性を認め、多様な他者を尊重し協働しながら、変化を乗り越えていく資質・能力を育成することが求められている。そのような中、本校では、全国学力・学習状況調査の質問紙調査で「自分にはよいところがあると思いますか」に肯定的に回答した割合が、過去10年間の平均で76.0%であった。全国平均78.6%を2.6ポイント下回っており、自己を肯定的に捉えられない児童が多いと言える。

また、県学習状況調査の質問紙調査で「授業の内容がどの程度分かりますか」や「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に肯定的に回答した割合が、それぞれ12.5ポイント、8.2ポイント低い結果であった。児童が考えを深められるような質の高い協働的な学びのために、個の実態を見極めて、意見を形成するための支援を考えるなど支援の必要な子どもによる重点的な指導を行う必要である。さらに、有効な対話や学び合いに課題があると言える。

そこで、自分のよさを知るとともに他者を共感的に理解し、多様さを生かした学び合いを通して学びを深めたいと考え、本研究主題を設定した。

## ◆研究内容及び方法

### (1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- ・学ぶことに興味・関心をもち、自己の学習の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
- ・子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
- ・習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出だして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか

### (2) 授業づくりの三訓を視点とした授業改善

本年度は「しかけて待って」「語らせつないで」を重点項目として、研究授業を行う。

### (3) 個別最適な学びの充実

- ・学級の実態に合わせたねらいの明確化と、それに応じた単元構成の工夫
- ・個々の特性や学習状況に応じた様々な学び方の提供

### (4) 協働的な学びの充実

- ・児童に語らせ、つなぐことを意識した教師のファシリテーション

## Ⅲ 成果の評価計画（検証方法）

- ① 令和5年10月から2か月に1回程度実施している全校生対象の「今の自分の見つめてみよう My チェック」（香川県教育委員会事務局義務教育課 Web サイト「生徒指導の充実」より）で、同集団を追跡調査し、変容を捉える。
- ② 「研究成果の参考とする10の指標」による調査を年度始め（基準値）と年度途中（11月末まで）に実施し、比較する。
  - \* 自己肯定感に関する項目
    - 「自分にはよいところがあると思いますか。」（児童）
    - 「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがありますか」（児童）
    - 「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか」（児童）
    - 「学校で行くのは楽しいと思いますか」（児童）
  - \* 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に関する項目
    - 「授業の内容がどの程度分かりますか」（児童）
    - 「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか」（児童）
    - 「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか」（児童）
    - 「分からないところは先生や友だちに質問して解決していますか」（児童）
- ③ 基準値や県の調査結果、児童生徒の実態等を踏まえて目標値を設定する。
- ④ 自己肯定感の低さなどが気になる児童の様子について、複数の教員で見取りながら変容を記録する。

## IV 研究成果の普及方法

- ① 香川の教育づくり発表会で、実践内容と成果を県下の教員に発信する。
- ② 坂出・綾歌地区の小学校教員に案内し、研究授業を公開する。
- ③ 研究内容や研究授業の様子などを公開する。
  - ・学校だより
  - ・学校ホームページ
- ④ 研究内容に沿った表現物を作成し、教職員、保護者、来校者へ研究成果を伝える。
- ⑤ 現職教育の際に、結果を基に成果や課題について共有する。
- ⑥ 大学教員等の派遣を行い、「授業づくりの三訓」を視点とした授業改善や自分と友だちを知り、違いを認め合う活動の工夫などの視点に基づき、授業参観・事後討議のご指導をお願いする。